

復興特別所得税に興味を持って

足立区立第四中学校1年 御山 理子

保育園の昼寝のときでした。「ズドン」という激しい揺れと、みんなの騒ぎ声で起きた私は、すぐにこの揺れが地震だと分かりました。先生や友達と部屋の真ん中に集まり、友達が泣いていたことを今でも覚えています。その日、テレビからは、津波で家や建物がすべて流されてしまっている東北の被災地の様子がたくさん放送されていました。まだ四歳だった私も、それを見て子どもながらにとっても大変なことが起きているのが分かりました。ここに暮らしていた人たちは、この先どうなってしまうのだろう、と考えていました。

あれから九年たち、私は中学校の宿題で税金について調べてみようと思いました。普段の生活で知っている消費税以外に、どんな税金があるのか調べてみると、所得税、住民税のほか、数えきれないほどの種類があることが分かりました。その中で特に目に止まったのは、「復興特別所得税」という税金です。

この税金は、私も経験した東日本大震災の復興に必要な財源を確保するための税金で、二〇一三年からの二十五年間、所得税額の二・一パーセントを納めます。そうして集められたお金は主に、仮設住宅の提供、堤防や道路などの復旧、放射能汚染地域の除染などに使われています。私は生まれてからずっと東京で暮らしていますが、東北以外の場所で生まれ育ち、親せきや知り合いも東北におらず、旅行にも行ったことがない人達もみんな、被災地が復興するように願い、公平・平等に協力しあって税金を納めているのだと分かりました。この集め方こそが、税金の仕組みで最も大切なことかもしれないと思います。

しかし、残念なことに、この税金が直接復興に関係しているとは考えづらいことに使われていることも知りました。一つ例を挙げると、ご当地アイドルのイベントなどへの支援です。もしかしたら、極めて間接的には、関連することがあるのかもしれませんが、ただ、このような分かりづらいことに使われているのは、私たち国民が税金の使い道に興味を持っていないことも一つの原因だと思います。自分が納めた税金が、どのような仕組みで何に使われているのか、もっと多くの人に関心を持つことが必要です。

ここで取り上げた復興特別所得税は、さまざまな税金の中のほんの一部です。税金は、私たちの暮らしに必要な施設や道路の建設や維持、また年金や医療などの社会保障、子どもの教育などを国民全体に広く行き渡らせるためのものです。よってしっかり納めるのはもちろんのこと、同時に、納めた税金が何に使われるのか、使い道にも関心を持ってもらいたいし、私も将来そのようなことに関心を持って、税金を納めていくつもりです。

私はあと五年で選挙権を得ます。そのときには、税金の使い道の公約について、学んだことを生かし自分なりに考えて、投票したいと思います。